# 實性

平成二十七年　第二号　春彼岸発行

## 春のお彼岸のご案内

### お彼岸の由来

お彼岸は、私たちの心が清らかにして、日頃の悩み、苦しみの世界から理想の世界に立ち返らせていただく、大切な機会です。

私共は、仏様の慈悲のもと、ご先祖様守護のもと、父母のご恩、そして、諸所の人々の縁に支えられて暮らしております。そんな皆様の為にご恩返しできる、尊い歩みが出来るような人になりたい、という願いが込められる一週間がお彼岸です。

彼岸は、向こう岸、迷い、煩悩の世界から河を渡り、悟りへの世界を目指す日です。

私共は、常日頃、一生懸命仕事をし、家庭を守り、忙しい日々を過ごしております。せめて、春秋の一週間、自分を見つめ、反省し、感謝し、仏道修行を致しましょう。これを六波羅蜜（ろくはらみつ）といいます。

六波羅蜜とは、

布施（ふせ）　施しをする、ボランテイアの原点、奉仕をする事

持戒（じかい）　あらゆる生き物を大切にする事

忍辱（にんにく）　耐え忍ぶ事

精進（しょうじん）　努力する事

禅定（ぜんじょう）　心を静に保つ事

智慧（ちえ）　勉強し知識を高める努力をする事

自然をたたえ、生物をいつくしみ、人々を愛し、先祖を敬い、亡くなられた人々を偲び、感謝の気持ちでお墓参りをしたいものです。

## 彼岸会法要

●三月二十一日（土）お中日

午前十一時より

参加費（お布施）　五千円

お彼岸入り　三月　十八日（水）

お彼岸中日　三月二十一日（土）

お彼岸明け　三月二十四日（火）

皆様お揃いで是非ご参加下さい。

## 涅槃会

涅槃会とは、お釈迦様の入滅（亡くなられた）された二月十五日です。

お釈迦様の伝道は、北インドのガンジス河を中心に、四十五年間の永きにわたりました。八十歳となられたお釈迦様は、阿難（アーナンダ）と数名の弟子をともなって、王舎城（ラージャグリハ）からクシナガラへと、伝道の旅をなさるのです。自らの入滅を予想され、生まれ故郷のカピラ城へ向かわれたようです。重病にもかかわらず、弟子達の助けをかりつつ、お釈迦様はさらに歩みを進められるのです。カックッター河で沐浴され、疲れを癒やされた後、ビハール州クシナガラのサーラ樹林（沙羅双樹）にたどりつかれます。お釈迦様は、身を横たえられたまま、集まった人々を前にして最後の説法をなされます。よく戒めを守り、五欲を慎み、静寂を求めて努力をし、定を修して悟りの知恵を得るべきことを示されるのです。そして、静かに如来としての永遠の涅槃に入られるのです。阿難をはじめ弟子達の嘆きは、想像を絶するほど深いものであったのでしょう。

釈迦涅槃図

お釈迦様

涅槃図には、真白い花をつけたサーラ樹の下で、お釈迦様は、頭を北に顔を西に向け、右手を枕にして横臥し、周囲には十大弟子をはじめ、老若男女、鳥獣達さえも嘆き悲しみ、百獣の王である獅子までが、仰向けになって慟哭している様子が描かれています。図の右上には、とうり天からかけつけたお釈迦様の母君、マヤ夫人が描かれています。

## 法然上人涅槃図

一月二十五日は法然上人の御命日です。「御忌」の法要が行われますが、本山では四月に厳修されます。

法然上人が入滅の時の絵が「法然上人涅槃図」です。

法然上人は、大勢の弟子にかこまれ、墨染めの衣にて合掌なされ、南無阿弥陀仏のお念仏を唱えられながら念仏往生されました。

法然上人涅槃図

# 修正会報告

一月三日、多数の檀信徒各位のご参加の元、平成二十七年度修正会が厳修されました。

当日は、国家安泰・先祖代々・家内安全、無病息災等をお祈りし、絵馬に諸願成就を書き、奉納いたしました。

清宴では、衆議院議員鴨下一郎先生にも新年のご挨拶をいただき、柳家我太楼師匠の司会進行のビンゴゲームでお楽しみいただきました。

来年度の修正会も多数の皆様のご参加をお待ちしております。

**今年度参加された方々の御芳名です（順不同）**

遠山　甚蔵様　鴨下　一郎様　青木　秀夫様　遠山　長昭様
鈴木　雅之様　鈴木　トラ様　鈴木　裕子様　鈴木　弘美様
鈴木　　進様　郡司　公子様　飯塚　美房様　市村　信治様
市村　美幸様　市村　幸治様　大石　光三様　大石登喜子様
片原紳一郎様　金杉　紘司様　金杉　洋子様　金杉　梨音様
金杉りつ子様　木村　英而様　佐藤　きく様　下河みな子様
下河　秀豪様　齋藤　雅起様　齋藤めぐみ様　菅谷　春雄様
菅谷　和子様　鈴木　常子様　鈴木　幹子様　鈴木美智子様
高埜　　勲様　高埜はつゑ様　滝澤　一江様　寺井　基子様
遠山　廣司様　日野　忠明様　日野久見子様　傍島　清二様
松本　はつ様　眞見　秀雄様　竹内　鈴奈様　竹内　竜騎様
山口　絹代様　山口　義人様　山口　誠史様　吉田　徑子様

針貝しず子様　渡邊　一夫様　米澤　恒夫様　芦川　亨様
芦川　永吉様　和井田智広様　大胡　博昭様　松野まさ子様
井下　佳弘様　井下千恵子様　小川　幸子様　水谷　明様
水谷　澄江様　水谷　勝彦様　水谷美津江様　水谷　彩様
水谷　朱里様

## 浄土と天国

亡くなった方が赴くところ「天国」と表現することがあります。キリスト教に由来するこの言葉は一般的に、「苦しみのない世界」の代名詞となっているようです。

仏教ではそれを、仏様が作られた国が、「浄土」と説きます。私達浄土宗は、お念仏を唱えることで、阿弥陀様の極楽浄土へ往生させていただくことを主旨としています。

「天国」と性格を異にするのは、安らかな世界に行くだけが目的ではない、という点。極楽に往生したいなら、清らかな世界で阿弥陀様から教を頂き、仏様となってご縁のある方々を教え、導きお守りしてくださるのです。

極楽往生を願う意義とは、自分の苦しみから離れるとともに、周りの人に幸せを与える存在となりたい、という点にあるのです。

## 花まつり

四月八日（水）は、お釈迦様がお生まれになられた誕生日です。お寺で、灌仏会が開催されます。お釈迦様の誕生をお祝いし、誕生仏に甘茶をかけお祝いいたしましょう。

本堂前（御拝）に花見堂が出ております。お参りいただいた方に「甘茶のティーバック」を差し上げます。

- 日時　三月下旬より四月上旬まで
　午前十時より午後四時まで
- 場所　實性寺　本堂前（御拝）

## 慶弔便り

[弔の部]

平成二十六年

十二月　十七日　野下　善七殿　ご子息　裕二様　四十三歳

平成二十七年

一月　五日　青木　克博殿　父君　正夫様　八十五歳

一月　十一日　坂　愛子殿　父君　下島満二様　八十二歳

一月　十四日　青木そよ子殿　夫君　明様　八十二歳

二月　四日　滝澤　栄殿　母君　はつ代様　八十一歳

二月　九日　廣瀬　浩一殿　父君　勇次様　八十三歳

## 境内の花

今年も境内に紅白の梅が咲き始めました。これからの季節多くの花が咲きますのでぜひご覧下さい。

## お墓参り

❖お墓参りにこられましたら、まず御本尊様に手を合わせましょう。これは、阿弥陀様に合掌することにより、功徳をいただき、その功徳をお墓の諸霊に振り向けることです。すなわちこれが「回向」です。そして、お帰りにはご回向できた御礼の合掌をいたしましょう。また、お参りを済まれましたならば、ご自身がお参りできた事の喜びの一環として、無縁様（ご回向のご縁のない諸霊）に手を合わせたいものです。

❖お線香を供えるには、なるべく香りの良い物を差し上げて下さい。一本でも、あるいは半分に折っても十分です。ご持参のお線香を、ご自身で火を付けるのは危険です。どうぞ玄関でお申し付け下さい。（もちろん無料です）

❖お供え物は、カラス・猫等が汚しますので、お墓参りが済みましたら、お供え物はお持ち帰り下さい。

## ご法事

❖ご法事には、「年回の法事」「祥月命日の法事」「先祖代々供養の法事」等がございます。

❖ご供養には、卒塔婆供養（施主用大卒塔婆、普通卒塔婆）があります。

❖お供え物は、「果物」「お菓子」がございますが、生前お好きだった物をお供えするのが好ましいと存じます。尚、仏様になられておりますので、「生息物」は避け、精進の物が良いと思います。

❖お酒、たばこ類は、仏様になられますと好まないといわれておりますが、差し上げても宜しいのではないかと存じます。

❖生花は、「慈愛」をあらわす物にて、こちらも生前お好きだった花があれば供えられるのも良いと思います。

☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くても十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確ですのでご利用下さい。

ファックス番号　０３（３８８３）３２２７

振　替　口　座　００１９０―６―２５８８７３

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061　東京都足立区花畑三―十七―十八
電話　０３（３８８３）８８６６

浄土宗　實性寺

http://www.jisyoji.com